

校番	67	学校名	広島県立廿日市西高等学校	校長氏名	三宅 啓介	全日制	本校
----	----	-----	--------------	------	-------	-----	----

1 ミッション(地域社会における自校の使命)

社会の形成者として高い志をもった人材の育成
 —新しい時代を協働して構築できる人材を社会に—

2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

- ・すべての生徒及び教職員が、
「他者に耳を傾け、自ら考え、行動する」ことができる学校の構築
- ・目指す生徒像
 - 社会で通用する人材
—社会人として求められる必要な力を身に付ける—
 - 当たり前のことが当たり前でできる人材—
—今ここで何をしなければならぬのかを考え、自発的に行動できる—
 - 努力を惜しまず課題に正面から向かう人材
—問題から逃げず求めるものをひたすら追求する—

3 取組の方向性

ア 「主体的・協動的・深い」学びを追求する授業を創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。

- (ア) 主体的な学びを生み出す授業を創造し、全教職員で実践する。
- (イ) 組織的な進路指導体制を確立し、生徒の進路実現のための系統的な進路指導を行う。
- (ウ) キャリア教育の視点をもたせ、挑戦する態度を育てる。

イ 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。

- (ア) 生徒心得に基づく毅然とした指導を定着させる。
- (イ) 時間を守るなどの基本的な生活習慣を身に付けさせ、当たり前のことが当たり前でできる意識を育てる。
- (ウ) 主体的に校内美化に取り組む態度を育てる。

ウ 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にする心を育てる。

- (ア) 学校行事（合唱祭・文化祭・体育祭、クラスマッチ 等）の活性化を図る。
- (イ) 部活動を活性化させ、困難に立ち向かう態度を育てる。
- (ウ) 校外でのボランティアなどの自主活動、あるいは交流活動を推進する。

エ 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。

- (ア) 家庭・地域との連携を密にし、ホームページ等を活用して情報を積極的に配信する。
- (イ) 地域の小学校、中学校との連携を密にするとともに、出前授業等の機会を通じ、本校の教育内容を発信する。

オ 教職員が達成感や充実感を持ち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。

- (ア) 校内の業務改善の推進に努め、働き方改革を進める。
- (イ) 教職員が生徒と向き合う時間を確保する。

4 環境分析

① 進路実績

年度	大学	国公立大学 合格者数	短期大学	専門学校	就職	その他
平成 28 年度	42%	3名	11%	30%	7%	10%
平成 29 年度	42%	4名	11%	36%	9%	2%
平成 30 年度	43%	4名	13%	30%	9%	3%

② 主要進学先大学合格者数

年度	広島修道大学	広島経済大学	広島国際大学	安田女子大学	広島女学院大学	広島工業大学
平成 28 年度	34 人	28 人	13 人	13 人	8 人	29 人
平成 29 年度	17 人	13 人	5 人	8 人	10 人	24 人
平成 30 年度	24 人	17 人	8 人	11 人	6 人	14 人

③ 広島県高等学校学力調査通過率 60%以上の割合

年度	1 年生			2 年生		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語
平成 28 年度	64.2%	63.1%	59.7%	55.9%	55.5%	43.2%
平成 29 年度	58.8%	65.4%	41.9%	37.1%	51.8%	32.6%

※平成 30 年度は実施していない。

④ 授業評価アンケート肯定率

	年度	1 年生	2 年生	3 年生
あなたは、授業に一生懸命取り組んで、理解しようと努めている	平成 28 年度	95.6%	97.1%	96.2%
あなたはこの授業を受けることで学ぶ意欲が高まった。	平成 29 年度	71.1%	74.3%	87.4%
	平成 30 年度	77.4%	78.5%	83.4%
先生はポイントを押さえて説明している	平成 28 年度	97.3%	95.4%	95.5%
	平成 29 年度	86.6%	86.6%	93.8%
	平成 30 年度	90.1%	90.8%	91.6%
先生は生徒の私語や居眠り、授業態度等についてきちんと指導している	平成 28 年度	95.2%	96.2%	93.3%
	平成 29 年度	88.5%	88.1%	90.5%
	平成 30 年度	87.6%	90.3%	89.0%

⑤ 主な課外活動

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
部活動加入率(%)	74.4%	74.4%	75.0%
ボランティア活動参加数(校外)(人)	155 人	164 人	142 人
ボランティア等自主活動参加数(総数)	559 人	626 人	455 人
検定(3種)受検者数(人)	195 人	195 人	184 人
英語検定(延べ人数)	71 人	77 人	69 人
漢字検定(延べ人数)	98 人	94 人	102 人
数学検定(延べ人数)	26 人	24 人	13 人
保育・看護体験(人)	18 人	53 人	51 人
英語ブラッシュアップ参加(人)	11 人	8 人	10 人
N. Z. 語学研修参加者数(人)	0 人	2 人	0 人

⑥ 問題行動・遅刻者数

	特別指導件数	指導票発行数	1日平均遅刻者数
平成28年度	26件33人	618件	15.3人
平成29年度	24件28人	541件	7.6人
平成30年度	80件71人	347件	3.9人

⑦ 保健室来室者数(内科的訴え)(延べ数)

	総数	1年生	2年生	3年生
平成28年度	1,754人	289人	685人	780人
平成29年度	1,344人	356人	402人	586人
平成30年度	1,051人	237人	420人	394人

5 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値			目標値	担当部等
		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	
1 「主体的・協動的・深い」学びを追求する授業を創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。						
主体的な学び、協動的な学び、深い学びをすすめる	授業評価アンケート「あなたはこの授業を受けることで、この科目を学ぶ意欲が高まった。」の肯定率	新規	77%	79.6%	80%	教務部
家庭学習習慣を身に付けさせる。	家庭学習時間 平時平均学習時間 試験前平均学習時間	51分 121分	52分 125分	59分 115分	70分 160分	
進路目標実現に向けた学力を伸長させる	1年生第3回模試と、2年生第3回模試とを比較した時の、3教科平均偏差値45以上の割合上昇率	-0.5%	-1.2%	-5.4%	+1.0%	進路指導部
	合格者数 国公立大学 広島修道大学 広島工業大学	3人 34人 28人	4人 17人 24人	4人 24人 14人	7人 35人 35人	
キャリア実現のための支援体制を確立する	学校評価アンケート「生徒一人ひとりに適したきめ細かい進路指導を行っている。」の肯定率	53.5%	56.5%	56%	60%	
挑戦を続ける受験体制を確立する	大学進学希望者におけるセンター試験3科目以上の受験者の割合	新規	66%	44%	50%	

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値			目標値	担当部等
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
2 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。						
基本的な生活習慣を確立させる	特別な指導件数	26 件	24 件	80 件	12 件	生徒指導部
	1 日平均遅刻者数	15.3 人	7.6 人	3.9 人	5.0 人	
生徒が主体的に校内美化に取り組む	保護者アンケート「環境美化に積極的に取り組んでいる。」の肯定率	新規	59.9%	58.7%	60%	
3 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にする心を育てる。						
部活動を活性化させる	部活動加入率(1・2年生)	新規	63%	75%	75%	生徒会指導部
	生徒・保護者アンケート「部活動は活発に活動していると思う。」の肯定率	新規	58.1%	59%	70%	
自主活動を活性化させる	ボランティア等自主活動への参加総数(延べ数)	559 人	626 人	455 人	600 人	
	生徒会による挨拶運動・校内美化活動等の回数(月平均)	新規	0.8 回	1 回	2 回	
4 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。						
家庭・地域に向けて情報を配信する	行事、部活動内容についての HP 更新回数	新規	60 回	88 回	70 回	総務部
	生徒・保護者アンケート「本校 HP を見ている。」の肯定率	新規	42.2%	42%	43%	
地域の小学校、中学校との連携、及び本校の教育内容を発信する	廿日市地区小・中学校との授業研究や出前授業・学校説明会の参加回数(延べ数)	—	新規(7回)	7 回	8 回	
	新入生アンケート「オープンスクールや高校説明会が進路選択に影響した。」の肯定率	69%	66%	70%	70%	

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値			目標値	担当部等
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	
5 教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。						
校内の業務改善の推進に努め、教職員の働き方改革を進める	各教職員が業績評価で設定した業務改善に関する自己評価が3以上の割合	—	新規	86.9%	70%	全体
教職員が生徒と向き合う時間を確保する	業務改善アンケート「生徒と向き合う時間が確保できている」の肯定率	—	新規 (41.4%)	29.3%	50%	

6 行動計画

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等	
1 「主体的・協働的・深い」学びを追求する授業を創造することにより、環境の変化を乗り越え、自ら進路を開拓する生徒を育てる。				
主体的な学び、協働的な学び、深い学びをすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒に付けたい力を念頭に置いた単元指導計画・年間授業計画の検証を行い、改善に取り組む。 (2) ICTを積極的に活用してパフォーマンス課題を取り入れた授業を実施し、生徒の表現力や思考力・判断力を育成する。 (3) 資質・能力の評価の在り方について研究し、議論を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒が主体的に学習に取り組む意欲と態度を育む“廿西スタイル”の授業を確立する。 (2) 年間評価計画にあるICEに基づいて直接的に評価できる授業を展開する。 (3) 授業モデルを踏まえた優れた授業の事例集を記録として残す。 	教務部	
家庭学習習慣を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎基本定着のための課題を計画的に与え、家庭学習の記録をつけていくことで意識を高める。教員間においても各教科の課題内容を共有し、指導の徹底を図る。 (2) 生徒集会等の機会を利用して、授業や家庭学習を大切にす意義を講話に盛り込み学習に対する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 基礎学力定着の指導も取り入れたシラバス、年間授業計画を作成する。 (2) 家庭学習を前提とした授業展開、指導内容、指導方法を取り入れ、授業改善を図る。 (3) 授業規律を確保し、授業を大切にす姿勢を育む。 		
進路目標実現に向けた学力を伸長させる	<ul style="list-style-type: none"> (1) 国公立ガイダンスや個別面談を実施し、個に応じた情報提供や学習アドバイス等によるきめ細やかな指導を行う。 (2) 模擬試験の前の事前指導や事後の振り返り学習において、デジタルサービスの活用を促進し徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 就職試験や推薦入試に対応できる力を身に付けさせる。 (2) 国公立大学の受験に対応できる力を身に付けさせる。 	進路指導部	
キャリア実現のための支援体制を確立する	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学年会や担任と連携して資料提携を行い、進路実現に向けて生徒や保護者の意識改革を行う。 (2) 外部講師や就職支援専門員と連携し、面接指導や就職支援活動を行う。 (3) スタディサポート分析会やデジタルサービス活用講座などを実施し、生徒の状況理解のための支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 様々な機会を活用して正確な進路情報を生徒・保護者に提供する。 (2) 生徒の状況理解を行い、教員が適切に生徒へ指導助言できるように支援する。 (3) 生徒自身が自己理解を深め、課題解決ができる能力を育成する。 		
挑戦を続ける受験体制を確立する	<ul style="list-style-type: none"> (1) 就職希望者に対しては、マナー講習や面接指導ならびに志望理由書の作成指導を組織的に実施する。 (2) 進路希望別ガイダンスや面接により、各自の目標をあきらめさせない指導を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 安易に推薦入試やAO入試に流れる生徒を少なくする。 (2) 持続的に学習する環境を作る。 (3) あきらめず最後まで学習に対して取り組む姿勢を養い、学力の定着を図る。 		

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
2 社会で通用する人材の育成のため、あらゆる機会を通して、傾聴し、熟慮し、行動できる生徒を育てる。			
基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 時間を守ることを意識させるため、きめ細かい指導体制を構築し、組織的な指導と家庭との連携強化に努める。 (2) 月間目標の作成とキャンペーンを計画的・集中的に実施し、意識の喚起を図る。 (3) 定期的な服装頭髪指導と日常の粘り強い指導を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教員間に指導の温度差がないよう、全体あるいは学年会において意識統一を図る。 (2) 家庭との連携を強め、生徒の変化に気づき、問題行動へつながるサインを早めに把握する。 (3) 生徒の主体性・自律性を育てる指導を行う。 	生徒指導部
生徒が主体的に校内美化に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> (1) 緑化美化委員会を中心として、校内に花を増やす取組を行う。 (2) 「校内美化に関するアンケート」により実態を把握し、掲示板や校内放送により生徒の環境美化意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 委員会活動を推進し、生徒会、PTA、部活動と連携を図り、生徒の主体性を育てる。 	
3 学校行事・部活動等においてすべての生徒が自己実現を達成できるよう支援するとともに、仲間を大切にできる心を育てる。			
部活動を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーションや部活動集会を行い、部活動への加入を促す。 (2) 生徒朝礼等での賞状披露や電子掲示板での活躍する部員生徒の姿や、大会等の成績公表を通じて、部活動への興味・関心を喚起する。 (3) 部長会を定期的に開催し、各部活の取組を交流するなどにより主体的な活動を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) リーダーを育てる取組とともに、人間教育を軸とした部活動の意識づけを行う。 (2) 具体的な目標を掲げて取り組ませ、県大会以上の大会に出場する部を増やす。 	生徒会指導部
自主活動を活性化させる	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会総務と生徒会指導部、特別委員会と各分掌との連携を図る。 (2) 部活動との連携を図り、キャンペーンなどを実施してボランティアへの積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒会総務役員の自主性を育てる。 (2) 委員会活動の活性化を図る。 (3) 幅広いボランティア活動参加の機会を保障するために、学校間・学校外機関との連携を図る。 	
4 家庭・地域社会から理解され、信頼されるために開かれた学校づくりを推進する。			
家庭・地域に向けて情報を配信する	<ul style="list-style-type: none"> (1) 分掌や部活動において、生徒の活動写真と簡単な内容紹介をデータで情報提供してもらう体制を確立し、部活動・生徒主体の活動行事の90%以上をHPへアップする。 (2) 学校評価アンケートの回収率が90%以上となるよう様々な機会を通じて発信する。 (3) 姉妹校との連携事業の実施内容等をHP、PTA新聞等で報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各部や生徒が自分たちの活動をHPで広報したいと自ら発信できるようなHPづくりを行う。 (2) 家庭、地域に向けて、読んでみたいと思えるHPを作成し、情報を発信する。 	総務部
地域の小学校、中学校との連携、及び本校の教育内容を発信する	<ul style="list-style-type: none"> (1) 廿日市地区の小中学校からの研究、研修会を案内し、職員への周知を図る。 (2) 出前授業や学校説明会の機会を通じ、近隣の中学校に本校の教育内容を積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 廿日市地区の小中学校からの案内を全教職員で共有するために、職朝連絡シートや掲示板を活用する。 (2) 小中学校の生徒や教員と交流し、本校の特色を理解してもらう。 	
5 教職員が達成感や充実感をもち、生き生きと働くことができるよう職場環境を整える。			
校内の業務改善の推進に努め、教職員の働き方改革を進める	<ul style="list-style-type: none"> (1) 各職員に業務改善に関する取組を考えさせ、働き方改革を意識させる。 (2) 教職員の提案内容を支援し、成果を可視化する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 業務の精選に努め、教職員が達成感や充実感のもてる働き方を工夫する。 	全体
教職員が生徒と向き合う時間を確保する	<ul style="list-style-type: none"> (1) 職員連絡会等を行い、見通しと計画性をもって業務に取り組めるようにする。 (2) 面談週間では、担任だけでなく教科担当も生徒にアドバイスを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教科等の指導だけでなく、一人一人の生徒と全般的な指導ができるゆとりをもたせる。 	